

うございます

2014・年頭のあいさつ

今年も町民の皆さまにとって良い年でありますように、心からお祈り申し上げます。また日頃の行政へのご支援、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、安倍政権が誕生し、アベノミクスのもと大胆な経済政策を押し進め、徐々にではありますが経済指標が改善され、景気回復への期待が高まりました。

一方賃金上昇が一部大手企業にとどまり、物価高とあいまって、国民の多くは、未だ景気の回復を実感できず、消費税の引上げなど先行きの不透明感をぬぐい去ることができない現状となっています。

また、極端な気象現象で、自然災害が全国各地で多く発生し、「災害大国」ということを強く感じさせる一年でもありました。

その中でも、2000年の有珠山噴火の際に支援をいただいた伊豆大島の大島町が、台風による豪雨災害で多くの被害を被り、その時の返礼として、直接大島町を訪問し、お見舞いを申しあげたところでございます。

当町も、2011年の東日本大震災を教訓に津波対策にも力を入れ、ハザードマップの作成や避難訓練の実施など防災対策に力を注いできま

した。有珠山の噴火につきましても、前回の噴火から14年が経過し、次の噴火に向けて準備を進めていかなければならない時期に入っています。

昨年9月世界ジオパークネットワークから「洞爺湖有珠山ジオパーク」が再認定され、各イベントにおいても、洞爺湖マラソンのエントリー数の更新、参加者5万人を目前にしたTOYAKOマンガアニメフェスタやアイアンマンジャパン北海道の初開催など観光振興に多くの成果を残すことができました。その結果、4月～9月までの半年間の観光客、宿泊客の数は昨年を上回り、東日本大震災で減少した状況から回復基調にあります。

財政状況も、一昨年、財政健全化団体から一年前倒しで脱却し、更なる財政構造の健全化を推し進めてきましたが、平成25年度において、実質公債費比率18%未満の基準を達成し、起債許可団体からも脱却できるところまでできました。

国内外にわたって、厳しい状況ではありますが、元気なまち洞爺湖町の実現を目指して、町民皆さんの一層のご協力をお願いいたします。

本年が町民皆さんにとって、健やかで、豊かな一年となるようご祈念し、年頭のご挨拶といたします。

洞爺湖町長
真屋 敏春

